

## 1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	1970101554
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	甲府ケアセンターグループホームそよ風
所在地	〒 400-0049 電話番号 055-236-6266

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成19年7月31日	評価確定日	平成19年10月11日

## 【情報提供票より】グループホームそよ風 事業所記入

## (1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14人	常勤	0人 非常勤 0人 常勤換算 0人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての - ~ 2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	25,170 円	
敷 金	□有( ) ■無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	■有( 180,000 ) □無	有りの場合 償却の有無	■有 □無	
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	0 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1,300 円			

## (4) 利用者の概要 明治33年1月0日 現在

利用者人数	16 名	男性	5 名	女性	11 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	76 歳	最高	91 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	竜王リハビリテーション病院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 明治33年1月0日

市街地に立地しているホームの周辺は、民家も多く、表通りの向かい側には大型店や専門店が並び、必要物品も求めやすく便利である。また、近くの神社へ出かける時なども、街中に位置しているため、人々のふれあいの場も多く持てる。更に月数回、複合する1階のデイ施設の大浴場で入浴ができ、入居者同士の触れあいとくつろぎの場となっている。その他夏祭りや運動会など季節の行事も一緒に行き、交流の場になっている。メジカルジャパンが全国規模で運営し、法人での研修計画も確立されている。食事・災害対策などもシステム化されており、グループホームとして施設内容が充実されつつあり、益々地域住民との馴染みの関係もできつつありま

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題と今後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回での評価を基に、管理者、リーダーを中心に全職員に課題を共有できるシステム化が確立されている。課題の改善には、スピーディに対応している様子が伺える。環境面での課題には、手作りの看板を作成したり、鍵の問題についても、利用者の行動パターンを把握する中で、不穏時のみかけることに変えるなど、課題の改善には前向きな姿勢である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) リーダー及び職員には、サービス評価の意義や目的を良く理解されている。外部評価は何回か受けているが、その結果を踏まえ、職員全員で改善や更なる質の向上に向けて取り組もうという意欲が伺える。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回開催されている。参加メンバーについても家族が順次参加できるよう工夫したり、地域代表、行政から出席されている。内容は自由となっているが、活動報告が主である。検討されたことは、報告書として玄関に掲示したりして、誰にでも閲覧できるよう配慮されている。職員に対しても、毎月フロア会議で報告したり、改善点を話し合い実践につなげている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者の家族には、毎月発行される「たより」は利用者の日々の暮らしが伺え、好評である。また来所時に近況を知らせたり、積極的に家族とのコミュニケーションをとっている。苦情等の対応についてもシステム化されている。アンケートなど実施したり、機会を捉え家族の意見や要望等の把握に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入しており、地域の行事にも職員と共に参加している。またホーム主催の納涼祭には、地域の方のにも参加していただいている。利用者も近所の神社や買い物等に外出しており、日常的に交流ができるよう心がけている。職員も更に地域となじむための働きかけについて検討されており、意欲が感じられる。

## 2. 調査報告書

事業所名： 甲府ケアセンターグループホームそよ風

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム内に事業の理念が掲示してあり、目にしやすい。職員は常に理念を念頭において、日々取り組んでいる。地域の中で暮らし続ける意義について、明示までには至っていなかった。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者はリーダー会議や内部研修などにおいて、事業所の理念を職員に伝えている。職員もその理念を念頭に日々の実践に取り組んでいこうとする姿勢が伺える。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会にも加入しており、地域の行事である、どぶ掃除や正月飾りづくりに職員とともに参加している。ホーム主催の納涼祭には、地域住民の方に呼びかけ参加して頂いたり、利用者も積極的に外出し、近隣住民等との日常的な、お付き合いができるよう心がけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝えてある。、自己評価内容・外部評価内容をフロア会議で確認し、更に全員で意見交換をし、改善や更なる質の向上に向けて取り組もうとする意欲が見える。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に定例的に開催している。家族メンバーも全員が順次参加できるように工夫されている。検討されたことは、報告書として玄関に掲示し誰もが閲覧できるよう配慮されている。職員に対しては、毎月のフロア会議で報告し、改善点を話し合い実践につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政としては、包括支援センターが主に相談できる場となっており、連携することによってサービスの質の向上につとめている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月お便り通信が発行されている。日常生活のスナップ写真は楽しみにされている家族が多く好評である。また来訪時近況を伝えたり積極的に家族とのコミュニケーションをとっているが、職員の退職等の報告で家族側の意図とくいちがいがみられた。	○	職員の退職等の報告に対して、家族の望む報告等のあり方について今後検討して欲しい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にも順次家族の方に参加していたり、家族会も結成されている。どんなことでも話しやすい雰囲気づくりに留意している。対応については、センター長を中心に直近の会議で検討し、全員で確認し、改善している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者・家族への信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応できるよう、デイ職員の異動等を考慮している。やむを得ない場合には、その時期や引き継ぎの面で最善の努力をしている。新しい職員が入ったときは利用者きちんとして報告をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で研修計画が確立されており、職種に応じて、研修に参加し、その成果を職員に反映できる仕組みができています。法人外ではグループホーム協会等の研修会には順次参加している。報告はフロア会議、全体会議で報告し、勉強会が開催されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修会に参加し、意見交換をしたりしている。他施設の職員の受け入れもしたりし、情報交換をしている。職員に他施設で現場の方との意見交換をしたいとの要望もあり、今後の検討課題にもなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現在の利用者はデイサービスを利用していた方もいて、利用者同士、職員とも馴染みの関係が築かれている。新しい利用者には、事業所を見学していただいたり、スタッフが自宅を訪問したりし、信頼関係を築いて利用いただくよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者のこれまでの経験や生活史を理解している。調理したり、洗濯ものたたみ、買い物、散歩など日常生活を共に行う中で、利用者同士の関係、利用者職員とのよい人間関係ができています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々の会話や表情仕草から、利用者が何を考えているかを知ることには重きを置いている。またご家族からも情報を得たりしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族には日々の関わりあいの中で、意見などを聞き情報としている。定例アセスメント会議で全利用者のモニタリングを実施している。職員全員の意見を尊重し、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直し期間3ヶ月としているが、月1回はモニタリングしている。状態が変化した時は、緊急会議をもちセンター長、ホーム長、リーダー、看護師、ケアマネが問題点、対応方法を確認しあい、本人や家族とも相談し、新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスと合同レクを開催したり、利用者の状態によりデイの特浴を利用している。家族の希望のより更新申請代行、通院介助などもしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携の医療機関があり、症状にあった医療機関に紹介するが、本人や家族の希望によりかかりつけ医の医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	基本的には看取りはしないことを入居契約時に文書「緊急時に関する指針」「看取りに関する同意書」で確認しあっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護については入居時誓約書、確約書を取り交わし守っている。トイレの誘導や食べこぼしの介助もさりげなく行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは作っているが、一人ひとりのペースを大切にゆったり見守っている。その日の過ごし方についても利用者からは希望が出にくく、職員がぬりえや書道など場面作りを工夫し、利用者のやる気を促している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは法人本部で作られているが、食材を近くのスーパーへ買いに行ったり、出来る人は職員と一緒に調理をしている。食事でも職員と会話しながら楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	バスタブが二つある広い浴室で希望にあわせ毎日入浴できる。家では入浴嫌いで入らなかった人も一日おきに入るようになった事例もあった。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、洗濯物干し、取り込み、たたみ等できることは積極的に職員と一緒にしている。テレビ体操をしたり、デイとの合同レクリエーションをしたり、月一回の外出にでかけたり、美術館見学に行くなど気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くにスーパーや薬局、神社があるので日常的に買い物や散歩に出かけている。戸外に出たがらない方もいるが、声かけをしてなるべく外出するよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が不穏な状態の時、玄関の鍵をかける時があるが、それ以外は日中鍵はかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルもあり職員の役割分担表もつくっている。毎年9月に避難訓練をしている。夜勤時の場合、出火の場所などさまざまな想定をし、訓練をしている。消防署とも連携が取れている。	○	災害に備えた備品を準備されることが望ましい。地域住民との協力体制についても推進会議のうちに確認しあっておくことが望まれる。避難路になっている外階段に鍵をかけないでおく工夫が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスの取れた献立になっている。食事の摂取量は記録している。水分はおおよそ1,500ccとるようにしている。トイレを気にして水分をとりたがらない人にはゼリーにして水分確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面式のキッチンがあるリビングは明るく、七夕飾りやすだれにあさがおの花を配した飾りで季節感、生活感がある。食卓を背にするようにソファをおきテレビをみたりゆっくりくつろげる居場所が作られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やカーテンは一人ひとり好みの物を使い、ご主人の位牌や家族の写真、ラジオなどを置き居心地よく過ごせるよう配慮されている。		